

## 校内別室指導支援員を活用した組織的な校内別室指導について

### 不登校児童の状況

対象児童は、小学校1年生の夏休みで生活のリズムが崩れ、夜遅くまで起きていて、朝に起きることができなくなった。2学期から欠席が増え、冬休み後の1月と2月は登校することができなくなった。担任と管理職による家庭連絡を継続して行い、保護者との面談を行ったが、改善は見られなかった。

### 具体的な取組

#### ○登校意欲を高める家庭連絡

日々の予定の中から、当該児童が興味をもちそうな内容を担任と管理職が連携して選び出し、事前に保護者へ電話連絡を行った。登校が困難な状況が続く場合には、当該児童が関心をもちやすい大きな活動を事前に伝え、登校の焦点として意識付けを図るなど、保護者と協力して登校意欲をもてるようにした。

#### ○登校につなげる別室整備

まず校内別室に登校することで、当該児童が安心して学校へ来られるようにした。当該児童の興味やペースに合わせた活動を校内別室で行い、無理なく学校の空気に慣れていけるよう配慮した。当該児童が活動的になってきた段階で、関心をもちそうな活動場面を選び、所属学級での活動に参加することを促した。

#### ○個別の活動の用意

個別指導の内容は、学級担任と連携し、校内別室指導支援員によって取り組むことができるものを用意した。当該児童の学習状況や興味・関心に応じた教材を準備し、教科に関連するものだけでなく、折り紙や工作等、当該児童が楽しんで取り組める活動も取り入れた。



#### ○校内体制の強化

学級担任・養護教諭・SC・管理職がそれぞれ把握している情報を共有し、支援会議を行った。会議では当該児童の状況や支援方針について検討を行い、その内容を全教員で共有した。共有された方針に基づき、校内別室での指導を実施した。

### 成果

休みを挟みながらも登校できている。校内別室への登校後、教室で過ごす時間が増えてきており、学級への参加が進んでいる。保護者が当該児童を学校まで送ってくれるようになり、協力体制が整ってきた。安心感と信頼感が育ってきていると考えられる。

### 課題

家庭の生活リズムを整えることが難しい状況にある。当該児童の安定した生活と登校を支えるため、継続的に働きかけていく。